

加賀藩士の屋敷跡



空から見た小立野ユミノマチ遺跡

小立野ユミノマチ遺跡は、金沢市の小立野台地にある江戸時代の遺跡です。

金沢商業高校の整備にともなう発掘調査で、掘立柱建物や屋敷地を区画する溝、土取り用の大きな穴などを確認しました。

江戸時代の絵図には、この地に加賀藩の弓や鉄砲を扱う武士の屋敷が描かれており、江戸時代末期に「弓持・筒持足軽」をつとめた「吉村平太夫」の名が書かれた陶器も出土しました。



「吉村平太夫」と書かれた陶器

財団法人 石川県埋蔵文化財センター

Ishikawa Archaeological Foundation

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731

E-mail ● mail@ishikawa-maibun.or.jp ホームページ ● http://www.ishikawa-maibun.or.jp/

七尾城跡〔七尾市〕



空中写真(木落川東岸部)



石組井戸(同上)



空中写真(庄津川～東沼田東岸部)



建物と塀(庄津川東岸部)

七尾城は、戦国大名の能登畠山氏^{はたけやまし}が16世紀の前半に築いた日本有数の規模をもつ山城です。山上には本丸を中心に、尾根筋に多くの曲輪^{まがしほ}が整備され、山麓には一里^{いちり}(約4km)にも及ぶ城下町が展開したといわれています。難攻不落と言われた七尾城ですが、天正5年(1577)の上杉謙信の侵攻で落城し、天正9年(1581)には織田信長から能登一国を任された前田利家の支配下にはいりました。

能越自動車道建設にともなって平成17年度から始まった調査は、平成23年度で第7次となります。今回の調査地は、木落川東岸部^{きおとし}と庄津川～東沼田東岸部^{しょうづ}の2地点に分かれ、ともに城と城下を区分する境界線を示す「惣構^{そうがまえ}」のすぐ外側に位置します。惣構の東の外側に位置する木落川東岸の調査区では、石組や素掘りの井戸や土坑、小穴などの遺構を確認しました。素掘りの井戸の下層からは、生活用具である折敷や曲物、一輪差などの木製品が出土しましたが、これらはこの井戸に関わる祭祀に用いられたものと考えられます。

一方、惣構の西の外側に位置する庄津川東岸部と東沼田東岸部の2調査区では、柵や塀^{へい}、石組・素掘り井戸などの遺構を確認しました。遺物は土師器や陶磁器類を主体としますが、刀の鞘尻^{さやじり}や銅銭などの金属製品や、フイゴの羽口^{はぐち}や鉄滓^{てつさい}などの鍛冶関連遺物も出土しました。東沼田東岸部の東側一帯は、「カンジャバタケ」と称されており、過年度調査では、金を溶かした坩堝^{くわ}や鉄滓などの金属加工を裏付ける遺物が出土しています。

このように、惣構のすぐ外側に位置する町屋^{まちや}や、鍛冶職人をはじめとした特定の職人の集住区域など、戦国時代の七尾城下町の具体的な様相が明らかになりつつあります。

いしこまちの 石子町ハサバダ遺跡（能美市）

石子町ハサバダ遺跡は能美市石子町地内にあります。この遺跡は能美古墳群の中心となる和田山・末寺山古墳群から南に約1km離れた、手取川扇状地の一角に位置します。

一般県道和気寺井線の改良にともなう発掘調査で、調査区西側では、河道から、廃棄された弥生時代終末期の月影式土器が大量に出土しました。

調査区東側では、掘立柱建物、溝、柵などの遺構を検出しました。掘立柱建物や溝から中世陶磁器が出土したことから、調査区東側には中世の集落が存在していることがわかりました。掘立柱建物は、南北方向に主軸があります。溝は南北方向と東西方向に走るものが3条ずつあり、南北方向の溝が東西方向の溝より後に作られたことがわかりました。また、柵は南北方向に配置されており、2列の柱穴があることから、作り替えられていることを確認しました。

調査区東側で確認した中世の集落は、掘立柱建物、溝、柵などが南北を軸方向として配置されていることから、東西南北の方角を考えて集落形成がなされていたと言えます。



北東上空からみた調査区



調査区西側の河道（南から）



調査区東側の状況（北東から）



河道から出土した土器

多田ツルガタン遺跡〔かほく市〕



調査区全景（南から）



総柱建物（写真上が北）



須恵器出土状況

河北潟東縁部の低丘陵や沖積低地には、加茂遺跡（津幡町）をはじめ多くの遺跡が存在しており、多田ツルガタン遺跡もその一つです。河北縦断道路建設にともなう発掘調査で、古墳時代後期（7世紀）と中世の遺構・遺物を確認しました。

古墳時代では、丘陵の裾にあたる調査区の北側で後期の須恵器がまとまって出土しました。須恵器の中には、焼いた時に変形してしまったものやくっついてしまったものなど、失敗品と考えられるものが多く含まれていることから、付近に須恵器を焼いた窯が存在していることがうかがえます。中世は、丘陵裾に掘られた溝の東側に、畠の畝溝と思われる小溝群と1棟の掘立柱建物を確認しまし

た。この建物は北・東側に溝を伴う特殊なもので、柱穴の一つから「天」と書かれた木簡が出土していることや、谷の奥まった場所に建てられていることなどから、仏堂や社のような宗教的性格を持ったものではないかと考えられます。

今回の調査で出土した古墳時代後期の須恵器は、窯から流れ出て遺跡にたまったものか、あるいは流通する前に廃棄されたものと考えられます。興味深いことに、この須恵器は平成22年度に調査した能瀬南B遺跡（津幡町）の須恵器窯とほぼ同時期のもので、比較検討することにより、この時代の須恵器生産のようすが明らかになると考えられます。

古代
体験

古代体験学習講座 ～縄文狩人体験～

平成 24 年 3 月 18 日 (日)、平成 23 年度最後の学習講座を行いました。この講座は、黒曜石こくようせきで矢じりを作り、雁がんの羽根を使って矢羽根やばねを付け、自分だけの「矢」を完成させる専門性の高い講座で、製作後には本館中庭でいろいろな動物に見立てた的を射る試射体験も行いました。

午後からは鹿の角を素材にしたアクセサリー作りも行い、表面をなめらかにし文様を彫る作業は、「硬くて難しい」との声も聞かれましたが、今後とも参加者のご意見を参考にしながら、調査成果に基づいた本格志向の学習講座を続けていきたいと考えています。



鹿の角で作ったアクセサリー



矢じり作りは慎重に



今から狩りに向かいます



平成の狩人だ!!

情報
発信

平成 23 年度 発掘報告会「いしかわを掘る」

平成 23 年度注目の発掘調査成果を紹介する、発掘報告会「いしかわを掘る」を、平成 24 年 3 月 11 日 (日) に石川県立美術館ホールで行い、約 170 名の考古学ファンに参加いただきました。

報告は、縄文時代から江戸時代までの 6 遺跡で、の縄文時代晩期の木柱の構造が明らかにされ、志賀町の福井ナカミチ遺跡では、銅製帯飾りの出土から古代の旧福野湯周辺を統治した役人との関連性が指摘されました。また、後半では、金沢城下町遺跡 (丸の内 7 番地点)、小松市大川遺跡など江戸時代の報告が続き、各城下町に関わる武家屋敷や町屋の建設時期及び土地利用の方法などについて、新たな知見が示されました。



報告風景 (大川遺跡)



会場風景



親と子の発掘体験教室



眼下に平野を望む千野遺跡

小学校4～6年生の児童と保護者を対象とした発掘体験で、1回目は七尾市千野遺跡で平成24年6月23日(土)に、2回目は金沢市二ツ寺遺跡で7月28日(土)に行いました。両日とも天候に恵まれ、参加者は「調査隊員」として暑い中頑張っていました。子供たちは最後に、「埋レポート」として体験したことをまとめ、自分だけの報告書を作りました。

千野遺跡は弥生時代中期の墓地と古墳時代の集落で、3棟の竪穴住居を発掘しました。小さな破片でもたくさんの土器を掘りだすことができ、皆さん満足顔でした。発掘作業のようすや出土した遺物の状態などをデジカメで撮影し、洗浄体験では、弥生時代中期の土器などを洗って観察しました。



調査員に土器の説明を聞く(千野遺跡)



遺物が出土、写真で記録、パチリ!(千野遺跡)



発掘体験のようす(二ツ寺遺跡)

二ツ寺遺跡は、犀川の右岸に位置する縄文時代から近世にかけての遺跡です。当日は炎天下の体験でしたが、汗を流しながら、懸命に土を掘っている体験者の姿が印象的でした。発掘では、弥生土器や木製品が出土した場所もあり、竹ベラなどを使って、慎重に掘る場面もありました。弥生土器には表面に黒い煤がついているものもあり、調査員から土器の使われ方などの説明が行われました。



暑いなかでも笑みが(二ツ寺遺跡)



出土品を洗います(二ツ寺遺跡)



縄文土器づくり

人気の講座で、今回も募集開始早々申し込みの電話が鳴る状態でした。

平成 24 年 5 月 20 日（日）に 1 回目として縄文土器を作りました。出土した縄文土器をモデルとして目の前に置いて作り、渦巻の文様のある笠舞遺跡出土の深鉢が人気でした。

モデルの土器に忠実に作られたご年配の男性や、粘土紐作りに苦心しながら作っていた小学生まで、土器を作る技術はさまざまですが、縄文人の気持ちになりきって文様をつけていたようです。

2 回目の講座として、6 月 9 日（土）に前回製作した土器を体験ひろばで野焼きする予定でしたが、当日朝から雨のため翌日に延期しました。10 日朝も少し雨が残ったために、予定を一部変更しながらの体験となりました。最初は縄文暮らし体験の「縄文垂玉づくり」や「アンギンづくり」を行いました。11 時から小学生による点火式を行って、いよいよあぶり焼きの開始です。その火を利用して縄文クッキーを石の上で焼いて試食しました。

午後からは本焼きです。そして木の伐採体験と午前中の体験の続きを行うなど、あわただしく盛りだくさんでした。ときおり小雨が降る中で、割れることなく無事土器を焼き終えることができ、参加者の皆さんが笑顔で帰られたことがよかったです。



縄文人になりきって文様つけ



いよいよ火入れ



みごとに焼き上がりました



いきおいよく土器を焼いています



ゴールデンウィーク「^てがた^{あし}がた 手形・足形づくり」

平成24年の4月28日から5月6日の間、未就学児対象の「手形・足形づくり」体験を開催しました。約1,000人の子供たちが体験し、中には、毎年参加しているというご家族もみられました。

作り方は、保護者の方が円形の粘土板をつくり、子供の「手形」・「足形」をつけます。その後、文様をつけ、さらに孔を開け、最後に名前と製作日、年齢などを記入します。

この体験は、縄文時代の出土品「手形・足形付土版」がモデルで、出土品は北海道や東北地方を中心に見つかっています。乳幼児の手形・足形をつけて焼き上げた土製品で、紐を通すためと思われる小孔があります。

作品は、当センターで800～900度で焼き上げたあと、6月2日から展示・返却が行われ、子供たちの手元に帰っていきました。



本館に展示した約1,000人の「手形」「足形」



手形、竹や貝がらで文様をつけます



足形、思わず力がはいります



「顔出しはにわ」出現!!

8月20日の「まいぶん はにわの日」の朝、体験工房前の芝生に、高さ130cmの「顔出しはにわ」が出現しました。粘土で形を作り、電気窯で焼き上げた、当センターオリジナルの「武人はにわ」です。

夏休みには、たくさん子ども達が顔をのぞかせ、いろいろな表情で記念撮影をしていました。

これからも、埋文センターのシンボルとして、みなさんをお待ちしていますので、センターにお越しの際は、ぜひ顔をのぞかせてみて下さい。



「武人はにわ」になりきり、記念撮影